



年が明け、新しい1年が始まりました。寒さも厳しくなり、いよいよ冬本番ですね。今回の「のびのび通信」は、「子どもの気になる姿や困った行動の『わけ』と関わり方」についてお伝えする4回シリーズの最終回です。



前回まで3回に渡り、「毎朝テレビを見ていて、保育園へ行く準備をしない」という『たろう君』の例から、その行動の「わけ」を考え、その「わけ」に合った関わり方をみてきました。このように、子どもの気になる姿や困った行動だけを見るのではなく、その背景にある「わけ」に注目し、かかわり方を見つけていこうという考え方を「**冰山モデル**」といいます。

## 冰山モデルって なぁに？

たろう君の場合…



### 氷山の見えている部分

気になる姿  
困った行動

水面上  
見えている部分は  
全体のごく一部

氷山が浮かんでいる海水  
子どもの周りの環境

### 【気になる姿・困った行動の例】

テレビに夢中になって、保育園に行く準備をしない。

### 【環境要因の例】

- ・テレビがついている。
- ・見たい番組がある時間帯。
- ・離れたところから声をかけている。
- ・長い文章で伝えている。 など・・・

### 氷山の見えていない部分

わけ（発達の特徴）  
＝脳の働き方のタイプ

水面上  
見えていない部分の方が大きい

### 【発達の特徴の例】

- ・集中しすぎて次のことに切り替えにくい。
- ・見える物に注意が向きやすい。
- ・言葉だけでは何を言われているのかわかりにくい。 など・・・

水面下を見るのが重要

冰山モデルが示しているように、子どもの気になる姿や困った行動は、水面下の、発達の特徴とまわりの環境が影響しあいながら、目の前の姿や行動として見えています。水面上の気になる姿や困った行動をおさえようと厳しく叱ったりしても、根本的な解決にはつながりません。水に浮かんでいる氷を沈めようと押さえつけても、その反動で飛び出してしまおうように反発し、困った行動が大きくなってしまいう可能性もあります。発達の特徴は、生まれつきの「脳の働き方のタイプ」であり、努力によって大きく変わるものではありません。変えることができるのは周りの環境にあたる大人の関わり方です。できるところから、子どもの発達の特徴に合わせた関わり方をしていくことで、子どもにとっても保護者の方にとっても過ごしやすくなるかもしれません。ぜひ、子どもの行動の水面下を見ることを意識してみてください。



今回の内容を説明した動画が、甲賀市秘書広報課チャンネル（YouTube）にアップされています。ぜひご覧ください。（なお、動画の最後に掲載しています研修情報は昨年度のものになりますのでご注意ください。）



## つみきの広場



このコーナーでは、児童発達支援センターつみきで行っている遊びや活動の中から、家庭でも楽しめるものを紹介します。

### くすぐり遊び

「一本橋こちょこちょ」「きゅうりもみ」などのくすぐり遊びが好きなお子さんは多いのではないのでしょうか。スキンシップを図ることで愛着関係が深まったり、触られているところに意識が向くことで自分の身体に気づいていくきっかけにもなります。また、もう一度やってほしいという期待をもって大人に関心を向けたりと、コミュニケーションの土台を育むことができます。くすぐられる感触が苦手なお子さんは、そっと触られるよりも、大人の手のひら全体でぎゅっと圧をかけて触られるほうが受け入れやすい場合もあります。お子さんに合わせた楽しみ方を見つけてみるのもいいかもしれませんね。

### くすぐり遊び『きゅうりもみ』

きゅうりに変身！



お水でジャー



塩パッパツ



板ずり ごろごろ



トントントン



混ぜます



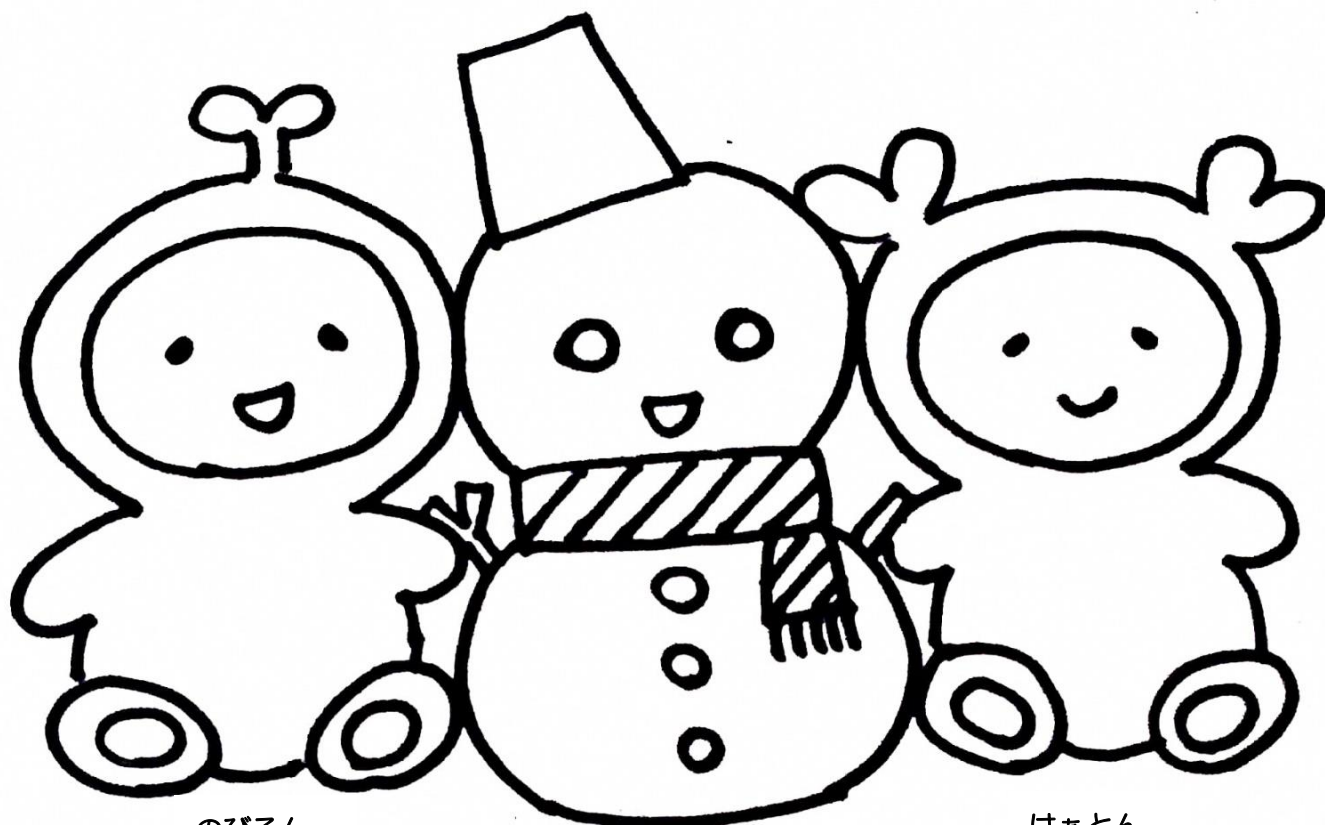
いただきます



ムシャムシャ

のびるん♡はあとん

# ～ぬいえ～



のびるん

はあとん

すきないろを  
ぬってね

